

シンガポールレポート

国際交流の輪を広げる

第二回阿久比町小学生海外派遣事業に参加した小学生たちが、自分たちの感想や意見を「シンガポール派遣報告書」にまとめました。そのうちの一部を紹介します。



シンガポールのシンボル「マーライオン」

した。驚いたことは、トイレにトイレペーパーがなかったこと、シャワーとトイレの間にカーテンがなかったことです。流せるティッシュを持っていて良かったと思いました。ホームステイ先の家族は、とても優しくしてくれてうれしかったです。

(東部小六年 田中ひかる)

シンガポールは、水が足りないそうです。マレーシアから水を輸入していることを学びました。治安のよい街で、子どもが夜に外出しても安全で安心して生活できる街でした。シンガポールの子どもはテレビを見ません。そのかわり本をたくさん読んでいました。ノートパソコンもたくさん使用していました。

(英比小六年 小林恵理)

ホームステイでは、英語をたくさん学びました。英語で話すと、英語が自然と耳に入ってくるし、とても楽しい気持ちになりました。困ったことは、ご飯が食べられなかったことです。お米の味も、日本とは全然



フェンシヤン小学校校庭

ちがいました。

(英比小六年 横井梨香子)

国境を越えてマレーシアのジョホールバル市内観光をしました。アバカルモスクと王宮博物館に行きました。博物館には、ジョホール王族の家宝など七万点が展示されています。日本から王族に贈られた品物が多かったのでびっくりしました。

(英比小六年 植松美月)

ホストファミリーの人たちは、すごく優しくかったです。一緒に過ごしている間にとっても仲良くなることができました。別れるときはさみしかったです。一緒に遊んだり、おみやげをもらったり、たくさん楽しい思い出をホストファミリーと、つくることができました。

(英比小六年 杉田彩夏)

ホストファミリーは、僕が分からない英語をコンピュータで日本語にしてくれて、すごく親切にしてくれました。日本では食べられないフルーツを食べさせてくれたり、説明をしてくれたりして、いろいろなことを知ることができました。お互いに相手を思いやる気持ちがあれば、言いたいことが分かるし、国によって文化が違うけど、やさしい心があれば仲良くなれると思います。

(草木小六年 山田創太)

シンガポールでは、ゴミを落としているところを見られたら、罰金だそうです。街のいたるところにゴミ箱が置いてあります。ゴミが出たときでも、ゴミ箱がどこにでもあるのですぐに捨てられます。阿久比町でもゴミ箱を増やせば今よりもキレイなまちになると思います。

(草木小六年 久富悠里)

僕が一番驚いたのは、シンガポール市街地には、日本のような一戸建ての家がほとんどなく、多くの人が公団住宅に住んでいるということです。国の違いを感じました。言葉が通じず、なかなか自分の思いを伝えることができてなくて苦労しました。もっともつと英語の勉強をしなければならぬと思いました。

(草木小六年 藤永啓吾)

次ページへ続く